

第2回蒲郡市ヘルスケア計画策定協議会 議事録（要旨）

■日時：平成25年9月24日（火）午後1時30分から午後3時30分まで

■場所：蒲郡市役所新館5階庁議室

■出席者：（座長）瀧本陽介委員

（委員）福原直樹委員、河邊義和委員、津下一代委員、小池高弘委員、
小澤素生委員、小澤洋介委員、金子哲三委員、鈴木良一委員、
大原義文委員、鈴木富次委員

（オブザーバ）浅野俊明氏、大野康史氏、西本洋氏、柴田和久氏

（事務局）企画広報課 吉見和也、他2名

■欠席者：（委員）岩尾聡士委員

■次第

1 開会

・医師会代表の交代にともない、新たに委員に就任された福原委員からごあいさつ

2 策定経過のご報告

・前回の第1回協議会開催後、引き続き各委員をはじめとする関係者にヒアリング調査を行うとともに、先進事例調査などを行い本市における具体的な施策・事業等について検討を行ってきた旨を事務局より説明

3 議事

（1）調査結果について

・有識者ヒアリング調査の結果概要【資料2】、先進事例調査【参考資料1】について事務局より説明。また、参考として経済産業省「再生医療の実用化・産業化に関する報告書」【参考資料2】について紹介。

（2）計画骨子について

・第1章～第3章（素案）【資料3】、第4章基本施策【資料4】について事務局より説明

（3）意見交換

【現状・課題について】

・主要課題1・2が市民の健康、課題3・4は産業、課題5は基盤なので、協議会で議論している施策が課題1～5の解決に貢献すると、うまくつながるのではないかと。

【基本施策1】先端医療の普及と産業化の推進

・眼科や再生医療が強みであるとしているが、企業にとって蒲郡市で展開することの強みがあり、お互いにWIN-WINでないと継続が難しい。健診との連動、行政や病院等とのネットワークなど、他地域とは違う強みを明確にすべき。

・再生医療については、徐々に産業クラスターが形成されるように研究所やリハビリ施

設の誘致のための基盤づくりなどを進めて、本市の資源を活かしてほしい。

- ・今後、蒲郡の取組を東三河で展開してマーケットを拡大する方向にいけば、産業として育成できるのではないか。
- ・愛知県東三河県庁では、来年度、医療系の情報や医療機器、福祉機器などに産学官連携で取組むための支援事業が出されており、本計画にも位置づけておくべき。
- ・健康・予防は医療のさらに先にあるニーズかもしれない。医療と健康づくりを連続性のあるものとして取組んでいくべきだ。
- ・ベースはものづくりにあり、つねに新たな技術開発が求められる。企業だけでは限界があるので大学との連携が不可欠。
- ・健康分野における先端医療を事業展開しやすい制度を構築してくれると企業は前進しやすくなる。
- ・再生医療は簡単ではない。お金と人、時間をかけて本気で取り組む必要がある。
- ・再生医療の市場規模 950 億円 (2020 年)、なかでも眼科や臓器系、癌、免疫などは今後大きく伸びていくとされている。再生医療の周辺産業の市場規模も大きい
- ・原点にかえて、企業の努力に対する理解を深めるとともに、市民病院として企業活動に協力する姿勢を明確にしたい。
- ・NPOのテーマ型の活動と企業の研究開発がつながっているケースが増えている。
- ・施設の誘致については、何を誘致するのか具体的に検討するべき。研究所や周辺産業、再生医療後のリハビリ施設などか。
- ・企業、研究機関の誘致などは県も同様の方向を向いており支援もできる。

【基本施策2】健康・予防の適切なサービス・活動の振興

- ・市民を巻き込みながら、いかにメタボを減らすか、また健診受診率を上げるか、そういった指標は、成果を測る上でとても大事な視点である。
- ・眼底検査も、心電図と同様にアシストシステムとして活用していくべき。
- ・ヘルスケアには「悪くなったものを直す」ものと、「健康を維持する」ためにやることがある。好きなことを楽しみながら健康づくりを進めていくべき。
- ・企業の立場から考えると、従業員の健康づくりはとても重要な問題である。リハビリもできるようなリハビリセンターなどができるといいのではないか。
- ・日本全国でドクターやナース不足になっている。目やひざの健診について、アイバンクやひざバンクなどを登録して、現場で活躍し続けられるような動きが必要。
- ・法定健診以外の項目に定期的に取り組むことで、介護予防にも成果が期待できる。
- ・市民を健康にすることが何よりも大切。特定健診や糖尿病などの健康課題を解決して成果を出していくことが、外部からの誘客にもつながる。
- ・あくまで楽しみを前提にすることで、結果的に健康・予防につながる。ノルディックウォークなどのイベントに絡めて振興を図るという方向も考えられる。
- ・健康がまごおり21との連携を図って進めてほしい。市民や企業に対しては、わかりやすく展開することが大事である。

【基本施策3】医療・ヘルスツーリズム

- ・ヘルスツーリズムとしては、健康づくりのプログラムを観光のプラットフォームに

乗せながら、蒲郡の特色にしたいと思って取り組んでいる。

- ・ヘルスツーリズムの成果をすぐに出すのは難しい。まず健康のまちとしてのイメージ向上、ブランド化が必要。
- ・ヘルスツーリズムにファミリー層というターゲットも取り込んで考えたらどうか。
- ・健康づくりのエビデンスを明確にしてオーソライズし、ブランディングすべき。

【基本施策4】医療健康情報のネットワーク化

- ・高齢化率の高い先進地であるが、高齢者が75歳を超えても自立した生活を送っている状況はとても魅力的であり強みだ。自分の体にあったトレーニングや補助器具を活用している地域では、認知症や要介護度が低く抑えられている。
- ・十数年から、住基番号から健診データ、母子医療、予防接種のデータ、基本健診のデータなどを蓄積してきた貴重なデータベースがある。これらを分析して個々の特性にあった医療の姿を見出していけるといい。
- ・効率のよい医療のためにITの活用は重要である。
- ・医療や保健、介護の考え方の違いを結びつけるためのデータ集積・分析が必要。

【基本施策5】基盤整備

- ・今後とくにスマートシティの議論が重要である。

【基本施策6】人材育成

- ・病院などの多くの関係者が理解して実践していくべき。
- ・生活習慣を変えるのは難しい。学校教育の段階から健康教育を行っていくべき。
- ・蒲郡市は、先端医療や再生医療などが身近にある稀有な地域であるといえる。新しい医療の現状とともに、予防についての学習もできるような機会があるといい。
- ・健康がまごおり（日本、あいち）21第2次計画を踏まえ、10歳代くらいから早く健康づくりに取り組んでいくべき。

【全般について】

- ・「医療」が、治療や介護、健康予防など何を示しているのか明示すべき。
- ・もう少し数値目標を入れてみることも必要ではないか。
- ・市民マインドにどう働きかけ、全体の動きにつなげていくことが求められる。
- ・「健康がまごおり21第2次計画」では具体的な施策を描くが、担当部門の発想だけでは限界がある。本計画では幅広い視点から方向付けを行っていきたい。
- ・骨子案について多くの項目が盛り込まれており、全て実現することは難しい。重点的に取り組んでいくべきところを絞りこむべき。基本施策1・2が重点ではないか。
- ・基本施策3～5は重点施策を支える施策と位置付けられる。
- ・産学と行政の役割分担、特色ある計画づくりが求められる。
- ・誰がどこまでやるのか、プレイヤーと数値目標を具体的に進める必要がある。
- ・ニーズをつなぐ役目としてマネジメントする人材が大事である。

4 事務連絡

- ・特別講演会企画書及びチラシ【資料5】について事務局より説明
- ・第3回協議会の開催予定をご説明

終了